

このリリースに関する連絡先:

広報担当アシスタントマネージャー

中尾 友加

03 6271 9400

yuka.nakao@bakermckenzie.com

プレスリリース

ベーカー&マッケンジー、岡山県久米南町における 32MW 規模の太陽光発電事業をめぐるプロジェクトファイナンスについて、パシフィコ・エナジーに法的アドバイスを提供

【東京発 2014年6月20日】ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）（所在地：東京都港区、代表パートナー：武藤佳昭）は、パシフィコ・エナジー株式会社（以下、「パシフィコ・エナジー」）がすすめる岡山県久米南町における32MW 規模の太陽光発電事業のための109.8億円のノンリコース型プロジェクト・ファイナンスに関し、同社に対してアドバイスを提供しましたので、お知らせいたします。本プロジェクト・ファイナンスでは、株式会社三菱東京UFJ銀行および株式会社中国銀行が融資を行っています。

外国企業のスポンサーに対する完全なノンリコース型のプロジェクト・ファイナンスとなる本案件は、2012年における固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電プロジェクトでの国内外の企業の積極的な活動により成長を遂げる日本の再生可能エネルギー市場において、重要な一步となる革新的な案件でもあります。

本事業には、GEエナジー・フィナンシャル・サービスも投資を行っています。

パシフィコ・エナジーの金當 一臣代表取締役社長は、「本取引はパシフィコ・エナジーおよび日本の太陽光発電市場の双方において、革新的な事例であると言えます。今後、戦略的パートナーと協働しつつ、日本において数多くのメガソーラープロジェクトを手掛けることを期待してやみません」と述べています。

本取引でリードパートナーを務めたベーカー&マッケンジーのギャビン・ラフテリーは、「この革新的なプロジェクトにおいて、パシフィコ・エナジーにアドバイスを提供し、同社の日本における事業基盤構築を支援することができ、光栄に思います」と述べています。

東京事務所の再生可能エネルギーグループの共同リーダーを務めるイアン・マックファーソンは、「外国企業がスポンサーとなるノンリコース・ファイナンスは、日本の再生可能エネルギー産業で活動する海外企業に良い刺激を与えることとなるでしょう」とコメントしています。

- 以上 -

パシフィコ・エナジーについて

パシフィコ・エナジー株式会社は、日本国内のエネルギー需要に対応するために太陽光発電事業を中核事業として2012年に設立された、許認可支援、施設設計、財務支援、建設、資産運用を含む太陽光発電に関するあらゆる事業に携わる企業です。太陽光発電業界に精通した社員やインベストメント・パートナーを有する同社は、年間売上8億ドル超の石油・ガスおよび不動産事業を行う米国カリフォルニア州に本社を持つJamiesonグループに属します。パシフィコ・エナジーは2014年に合計出力200MWとなる4件の太陽光発電プロジェクトの建設を開始します。本社所在地は東京です。

www.pacificoenergy.jp/

ベーカー&マッケンジーについて

ベーカー&マッケンジーは、47カ国に75オフィス、4,100名を超える弁護士とその他のプロフェッショナル及びスタッフ6,000名を擁する国際法律事務所です。1949年の設立以来、各国の言語及びビジネス環境に対する深い理解に基づく高品質のサービスを提供する法律事務所として知られています。2013年6月30日決算期における収入は、24億1,900万米ドルを超えました。ファームのエグゼクティブ・コミッティのチェアマンは、エデュアルド・レイテイが務めています。

www.bakermckenzie.com

ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）は、各国に所在するオフィスをメンバーファームとするスイス法上の組織体であるベーカー&マッケンジー インターナショナルのメンバーファームです。専門的知識に基づくサービスを提供する組織体において共通して使用されている用語例に従い、「パートナー」とは、法律事務所におけるパートナーである者またはこれと同等の者を指します。同じく、「オフィス」とは、かかるいずれかの法律事務所のオフィスを指します。